

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生公務員専門学校北九州校

目 次

| | |
|--------------------------------|-------|
| I. 学校関係者評価の概要と実施状況 | - 3 - |
| 1. 学校関係者評価の目的と基本方針 | - 3 - |
| 2. 学校関係者評価委員名簿..... | - 3 - |
| 3. 学校関係者評価委員会の実施状況 | - 3 - |
| 4. 学校関係者評価委員会の実施方法 | - 3 - |
| 5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 | - 4 - |
| II. 学校関係者評価委員会報告..... | - 4 - |
| 1. 重点項目について | - 4 - |
| 2. 基準項目について | - 5 - |

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校北九州校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

| 区分 | 氏名 | 所属(役職) |
|-------|--------|-------------------------|
| 業界関係者 | 久塚 純一 | 北九州市社会福祉ボランティア大学校(校長) |
| 業界関係者 | 西本 功二 | 株式会社 行政マネジメント研究所(代表取締役) |
| 高校 | 堀田 義高 | 福岡県立 八幡南高等学校(校長) |
| 地域住民 | 土谷 佳範 | 北九州市小倉北区黒住町4丁目 |
| 保護者 | 鈴木 由美恵 | 公務員総合科 1年 在校生 保護者 |

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2020年9月30日(水) 17:00 ～ 17:45

場所：麻生公務員専門学校北九州校 4階 401教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2019年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2019年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【今年度の取り組み状況】

昨年度に引き続き、今年度もフィールドワークの実施に重点を置いた。公務員総合科（2年過程）では、職種研究ゼミを実施し、班毎に官庁や企業、ボランティア団体への訪問等を行った。また、年度末にその成果を学校長や他学科の教員を交え、教員の講評を行った。ボランティア活動では、北九州市青少年ボランティアステーションと連携し、学生が主体となって学内ボランティアサークルを運営した。また、昨年度より始めた小倉祇園太鼓、子ども食堂、農業体験等の地域活動にも積極的に参加し、地域に貢献するとともに、社会問題に対して関心を深めてきた。

また、教員の資質向上のために、教員による職種研究や科目勉強会を開催した。担当科目だけでなく積極的に教員が勉強会に参加することで、学習指導や受験先指導におけるスキル・ノウハウの向上につながった。

さらに、卒業生を招いて職業理解のイベントを実施した。また、公務員採用試験に最終合格した在校生による座談会や卒業生によるブース形式での業務説明会、卒業生を面接官とした面接練習も実施した。

【課題】

(1) 職種研究ゼミでは、昨年度と同様に班毎の発表内容に大きな格差があった。担当教員が多くの助言をする機会を設け、その格差を是正していくことを継続する。

(2) 職種研究や勉強会を実施したものの、教員のキャリアにより授業力や面接指導力に格差がある。教員全体で学科運営を行っているため学生に不利益は生じていないが、今後も継続して勉強会や過去問分析などに取り組んでいく必要がある。

(3) 卒業生との連携は今後も引き続き継続していく。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

「法人の理念」、「学校の教育理念」、各学科の教育目的および育成人材像は明文化され、職員には年度開始前の定例会議にて確認を行い、学生には年度開始時のガイダンスの中で、学生便覧を用いて説明している。また、Webサイト・パンフレット等により校外へ発信している。今後、非常勤講師に対して更なる周知徹底を図る必要がある

【今後の取り組み】

非常勤講師に対しては、年度始めの打ち合わせの際に「法人の理念」、「学校の教育理念」、各学科の教育目的および育成人材像を伝えていく。「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。教職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。また、Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

今年度より導入した学生管理に関するシステムの運用で混乱が生じた。また、事務職員に対しての研修計画が十分でない。

【今後の取り組み】

新システムの研修を新たに行うことで業務の効率化と意欲・資質の向上を図っていく。また、事務職員の能力向上に向けて、研修計画を明文化していく。

【評価委員からの意見】

システム上の問題は運営する中で随時修正する他ないため、継続して対応して頂きたい。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

・今年度に「ディプロマ・ポリシー」・「カリキュラム・ポリシー」の見直しを行ったため、職員による十分な検証が必要である。また、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが学校関係者と社会への周知、浸透が課題である。

・一部の科目についてコマシラバスが完成しておらず、カリキュラムマップも未着手である。加えて、シラバス・コマシラバス作成およびその改善に向けた教員の協力体制についても課題がある。特定の科目担当者での作成になっていることが多く、科目担当者や学科担当者の総意としてシラバス・コマシラバスを作成する体制づくりを構築する必要がある。

・授業評価の実施・評価体制について、非常勤講師に対する授業アンケート結果のフィードバックが不十分である。また、授業勉強会のさらなる充実も求められる。現在は、主に数的推理・判断推理の勉強会を実施しているが、社会系科目や面接対策の勉強会も実施する必要がある。

・教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策について、非常勤教員に対する方策が不十分である。また、研修参加時期が限られてしまう点も課題。

【今後の取り組み】

- ・「ディプロマ・ポリシー」・「カリキュラム・ポリシー」の周知・浸透は、今後内容の検証・見直しを行ったうえで、改めて教職員へ定例会議等で周知を行う。学生に対しては、入学時ガイダンス等で保護者と共に説明を行い、かつホームルーム時間を活用し周知を行う。社会公表については学校ホームページへ掲載する。
- ・コマシラバスの未完成部分を作成する。カリキュラムマップについても早急に作成する。各教員が担当科目のシラバス・コマシラバスの作成に関わり、教務会議でシラバスの内容について議論・協議していく。
- ・非常勤講師に対しての授業アンケート結果のフィードバックを行い、結果によっては改善を求めていく。勉強会については、今後内容の拡充を検討・実施していく。また、勉強会への参加を促していく。
- ・4月から10月までの公務員試験対策期について、カリキュラムや業務内容を再度検討し、教職員が研修に参加できる環境を整える。

【評価委員からの意見】

入学前講座や習熟度別の補講など、リメディアル教育は今後も継続してほしい。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

就職率・就職者の割合向上、退学率低減のため、年度開始時に設定した目的・目標を全教員で共有し、教務会議等で随時、進捗状況を確認している。教員全体で目標達成のために協働した結果、公務員合格率等のほとんどの目標を達成できている。合格実績は年度末に数値結果を取り纏め、振り返り会議を行い、結果の要因について教員全体で協議して次年度以降の改善に努めている。しかし、近年漸増傾向にある退学率が課題である。

【今後の取り組み】

引き続き、公務員合格率の維持・向上のための取り組みを着実にを行うとともに、新しい公務員試験制度への対応や出題傾向の変化など、最新の情報を共有し、近時の傾向に沿った指導ができるよう努める。また、現在退学防止のために教務会議で情報共有を行っているが、それに加えて退学懸念学生に対する面談・指導を複数教員で行うなど対策を強化していく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

学生への就学・進路支援に関しては、面談や保護者を含めた三者面談を定期的に行うのみならず、状況に応じて適時実施し、学生をサポートする体制は十分に機能している。また、本校独自の取り組みとして、学校通信を月一度保護者に送付し、学校生活の状況を報告している。学校生活の中では、学生が担任やスクールカウンセラーによる面談を常時受けられる体制を整えている。奨学金制度も充実しているため、学生を経済面から支援する体制も十分にあるといえる。また、健康診断の実施や学生寮・部活動の設置、ボランティア活動の案内・推奨など学生の健康管理、生活環境への支援も充実している。卒業生に対しても、再受験する学生に対しての面接指導を行っている。なお、部活動の数および活動頻度が減少していることが課題である。

【今後の取り組み】

同部活動については、系列校との連携を模索し、多様性の維持に努める

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

専修学校設置基準、養成施設指定規則に則り、教育上の必要性に対応した施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。公務員採用試験に専念できる環境を整えるため、教室のほかにもパソコンルーム・トレーニングルーム・面接指導室・図書コーナーなどを設置している。また、専門機関の指導の下、定期的に避難訓練を行っている。学校の設備・備品を整備する体制や災害や事故に関する予防措置をしっかりと行っており、安全で快適な学校生活を維持している。

しかし、図書コーナーのさらなる充実と書籍の利用率の向上が課題である。また、避難訓練実施後の総括・改善の実施、および火災や地震以外の災害を想定した訓練の実施が不十分である。

【今後の取り組み】

一次試験対策・二次試験対策に必要な書籍の拡充を図り、随時学生への書籍内容を案内する。また、避難訓練実施後に教職員で振り返り会議等にて情報共有を行う。火災以外の災害を想定した避難訓練の実施については、今後検討していく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

学生募集については、アドミッション・ポリシーや学費、募集定員などを募集要項や Web サイトにて公表し、学校としての学生受け入れの方針を明らかにしている。募集活動では、資格・検定などの結果を報告するとともに、就職実績についても保護者をはじめ参加者にパンフレット等を配布している。また、入学者選考は、公表している選抜方法に則り、公平かつ適切に実施している。入学者の選抜実施方法や選考基準を設け、この基準に沿って複数の教職員で選考を行っている。学生納付金は、妥当性を理事会等で審議・決定し、募集要項に明示している。

【今後の取り組み】

アドミッション・ポリシーの学外への公表促進、学内での共有化を引き続き行う。今後も、法人の財務状況などを考慮しながら、税率変更や物価上昇などの影響等必要に応じて、適切な学生納付金の設定を行う。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【今後の取り組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守している。法令遵守に関する啓発では、定例会議等による周知徹底や、法令に関する研修等で知識の習得に努めている。また、毎年度諸規定は定期的に整備し、適切に運用している。法令等遵守に関する啓蒙や研修等が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われて、法令等遵守義務や違反に対する処分等が、規程の中で明確にされてり、法令遵守違反等に対しての調査・報告及び再発防止策等がなされている。一方で、学生数の増加が見込まれている状況の中、学生の満足度をあげる環境づくりが課題である。

【今後の取り組み】

教室調整を円滑に行っていき、学生満足度を高めていく。その他法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも、会議や研修等での周知徹底を図っていく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

毎年度、定期的に自己点検・自己点検評価を行い、実施結果に基づき業務等の改善を行うことを長期にわたり継続することで専門学校の質保証・向上への取組みを行っている。また自己点検・評価については、企業関係者や地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者 評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れた改善を行っている。加えて、自己点検・評価報告書を作成後、学校関係者評価委員会で報告を行い改善案などの意見を取り入れ、承諾を得た後、学校関係者評価報告書をまとめ Web サイト上で公開している。自己評価の結果、判明した課題の重要性と改善策を全教職員が正確に把握し、学校全体で課題の改善に取り組む仕組みを構築していくことが課題である。

【今後の取り組み】

定例会議等で委員以外の職員と情報共有を行い、活動する上でより多くの意見を反映させていく。 評価基準や項目を明文化し、全教職員が統一した評価基準で点検を行えるよう今後も継続を図る。

【評価委員からの意見】

自己点検活動により改善された箇所が判別しにくいいため、単年度の評価に加えて数年分の自己点検報告書を比較できるような資料が欲しい。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

本校が公務員として活躍できる人材を輩出することを目的としているため、学生には積極的にボランティア活動に参加することを促している。学生への告知を徹底し、活動後には報告書の提出を義務付けている。北九州市青少年ボランティアステーション・社会福祉協議会・福岡県警察・地元町内会など多くの関係機関と連携し、ボランティアを通じて地域社会に貢献している。学生に案内を行っているボランティアは多種にわたり、学生のニーズに応じたボランティアを提供できている。しかし、ボランティア活動報告書の提出が徹底できていない、およびボランティア活動の事後評価まで実施できていない点が課題である。

【今後の取り組み】

ボランティア活動報告書の提出の徹底を図るとともに、事後評価を行う仕組みづくりを構築する。また継続性のあるボランティア活動への参加を促すことで、地域との連携を強化していく。学生の参加意欲向上のため、貢献度の高い学生に対する表彰も今後検討していく。

【評価委員からの意見】

ボランティア報告書の作成・提出を学生自身が主体的に提出できることが理想。今後、学生の状況を踏まえ教員が学生をサポートできるよう対応してほしい。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【課題、改善結果】

学校の特性上、留学生の受け入れは行っていない。海外留学については、グループ全校単位で海外留学プログラムがある。留学後のサポートも本部にある専門機関と連携して行われている。しかし、公務員試験の多くが9月に実施されるため、夏季海外留学を行うことができる学生が事実上非受験年次の学生に限られてしまうことが課題。

【今後の取り組み】

春季の留学や受験年次に進級する前の留学を促していく。また、今後本部が主体となり、海外における危機発生時のシミュレーションを実施していく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし。

以上